

## 記念誌「相中相高百年史」 ” 思い出の記 ” より

## 御親閲と校旗

中38回卒 渡辺 郭善 (※1)

黒い制服制帽で一年に一本ずつ増える帽子の白線や白い肩掛け鞆の先輩の姿にあこがれがあり大変魅力を感じていた。然し私達の入学の時から制服制帽は国防色に一変し、鞆も皮の背のうになった。

私達が五年生になった昭和十四年五月二十二日、全国の中学生以上の学生、生徒と教職員合わせて三万五千余人が宮城前広場に集まり、御親閲の大分列式が挙行された。相馬中学校からは渡部校長、加藤教官、小野教諭と生徒代表十名が参加した。今でもその時のことが眼前に髣髴としてくる。大変名誉なことだったと思った。前日白い布袋に小銃を入れ帯剣して列車に乗り、上野駅前の旅館に一泊したことを思い出す。

当日の午前、広場は若人で満ちあふれていた。私達も武装して所定の位置についた。「前へ」の号令一下私達は隊伍を組み銃を担って前進した。校旗を先頭に教職員続いて生徒の順であった。広場の大地を一步一步、歩武堂々と踏みしめて進んだ。「頭 - 右」の号令で一斉に右を向き「頭右」の敬礼をした。私達から二、三十メートルのところにあった玉坐に立たれた天皇陛下を仰いだ。陛下は陸軍の軍服で親しく答礼された。私達は感激で胸がいっぱいになり夢中で前進を続けた。

分列式が終わり、はじめて校旗の波と若人の群れに気がついた。初めは単に「色とりどりの校旗がきれいだな」ぐらいにしか感じなかった。私達はそれまで一度も自校の校旗を目にしてはいなかった。然し落着いてよく見ると次第に本校の校旗の立派さが分かってきた。本校の校旗は他校のよりひとまわり大きかったように思っている。重厚な深紅の絹の生地に生き生きとした筋骨たくましい向い合った二頭の馬が刺しゅうされた豪華なものであった。

見ているうちに誇りと自信が湧いてきた。このことはそれからの私達の人生に大いに役立ったことと思っている。今も時々思う、何時誰が作ったものだろうか。是非もう一度見たいものである。

翌日の新聞で当日の午後、「青少年学徒に賜りたる勅語」が發布されたことを知った。学徒の使命を明らかにし、質実剛健の気風を更に涵養しその精神を作興させるものであったと思う。

制服の改訂、御親閲・学徒に賜った勅語等等軍国主義的で第二次世界大戦へと敷かれたレールの上を私達はまっしぐらに進んでいったようだ。今考えると誠に隔世の感があるが私達にとってはかけがえのないよい思い出であり貴重な経験であった。

(※1) 昭和15(1940)年卒 丸森出身